

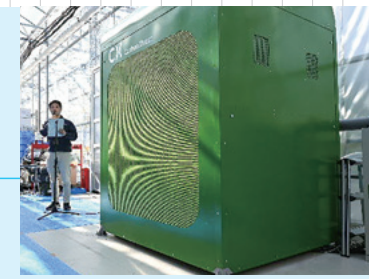
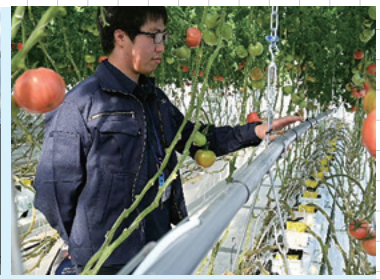
空気中のCO₂濃縮

全農など試作機 トマトに施用

JA全農などは3日、神奈川県平塚市にある全農の営農・技術センターで、空気中の二酸化炭素(CO₂)を濃縮してハウスに施用する装置の試作機を披露しました。CO₂濃度を5倍以上に高められるとしています。産学連携で試験を重ね、個人農家も導入できるような装置として実用化を目指します。

試作機は「膜DAC(ダイレクト・エアー・キャプチャー)」と呼ばれる、特殊な膜を介してCO₂を濃縮する仕組みを備えます。九州大学と、同大学発ベンチャーのCarbon Xtract(カーボン・エクストラクト)が開発しました。全農のハウスに設置し、実際にトマトに施用して効果を調べます。

同大学によると、空気中のCO₂濃度(約400ppm)を、2000～3000ppm程度に高められるといいます。その後、トマトに適した約700ppmに調整して、群落内に伸ばした配管から局所施用します。トマトはロックウール培地の養液栽培。慣行の、液化炭酸ガスによるCO₂施用と生育などを

(左)CO₂の濃縮装置について説明する全農担当者(右)濃縮したCO₂は栽培ベッド上の配管から施用する(いずれも3日、神奈川県平塚市で)

比較します。

空気中のCO₂を利用すれば、温室効果ガスを直接減らせることに加え、CO₂を発生させるための化石燃料の使用量も削減できます。同社の森山哲雄代表は「まずは農業分野で、どれくらいの大さの装置がよいか検証する」と話します。全農は「農家の規

模に合わせた装置の開発につなげたい」(施設園芸研究室)としています。

全農は今年3月、同大学、同社、双日、三菱UFJ銀行と連携協定を締結。協力してこの技術の実用化を目指すとしています。

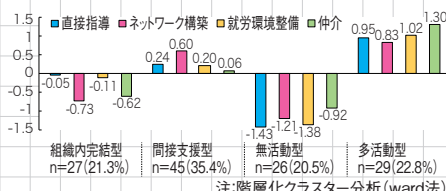
(日本農業新聞 2024年12月4日)

農業技術ピックアップ

農福連携支援者の
支援活動の実態と課題

農福連携を推進していくためには、農業と福祉双方の知見を持ち助言・相談等を行う支援者が必要です。支援者として期待されるのが農業ジョブトレーナー養成講座の修了者。そこで、修了者の活動状況と課題を把握するため、修了者に対して質問紙調査を行いました。

回答があった障害福祉サービス事業所職員(事業所職員)、農業者、公務員など修了者127人のデータを分析。農業就労の支援状況を問う28項目を因子分析し、「直接指導」「ネットワーク構築」「就労環境整備」「仲介」の4つの支援活動に整理しました。



【図1】クラスター分析による支援者の類型化

【表1】支援活動の際の課題

	組織内完結型 27	間接支援型 45	無活動型 26	多活動型 29	全体 127
報酬***	3(11.1)	4(8.9)	2(7.7)	13(44.8)	22(17.3)
時間	10(37.0)	20(44.4)	9(34.6)	12(41.4)	51(40.2)
農業知識・経験	15(55.6)	24(53.3)	12(46.2)	9(31.0)	60(47.2)
障がい知識・経験**	3(11.1)	9(20.0)	12(46.2)	3(10.3)	27(21.3)

注:1)人数は、支援者が課題として選択した項目をすべてカウントした(複数回答)
注:2)Fisherの正確確率検定 注:3)**P<0.01,***P<0.001

の、他組織の関係者や支援者との関わりは少なく、支援対象の組織内で活動が完結している②間接支援型は、障がい者に直接接するよりも間接的支援を行う機会が多い③無活動型は、どの活動もほとんど行っていない④多活動型は、すべての活動をよく行っている――。

支援活動の課題は、4タイプとも1番目が「農業の知識・経験が少ない」、2番目が「仕事が忙しく時間が取れない」でした(表1)。農福連携の推進においては、特に農業知識・経験を持つ人の協力が求められています。

お問い合わせ先

生産技術研究室 地域連携研究課
☎0598-42-6356

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

農業経営に必要な資金として
幅広くご利用いただけます

取扱期限 2025.3/31月

※JAバンク利子補給制度により、お借入れから3年後の応当日まで最大年1.0%の利子補給が受けられます

JAバンク利子補給制度で
金利負担を軽減します

当初3年間
最大利子補給

年 1 %

詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください

JAバンク三重 農業資金

検索

JAバンク 三重県下JA
JA三重信連

